

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301492		
法人名	社会福祉法人寿栄会		
事業所名	たむかい寿楽荘		
所在地	〒031-0011 青森県八戸市田向2丁目2-1		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成30年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者様一人一人が、これまでの自宅での生活に近い環境で楽しく、安心して暮らせるようにする。</li> <li>・不穏や興奮、帰宅願望等のBPSDの改善など、個別支援に取り組んでいる。</li> <li>・小規模多機能型居宅介護支援りんごっこ寿楽荘と併設して運営することで、在宅生活から入居施設へ、精神面での負担が少なく移行できる。</li> <li>・小規模多機能型居宅介護支援りんごっこ寿楽荘と併設して運営することで、職員間で連携を図り、有事の際など安全面での強化にもつながっている。</li> <li>・地域の行事へ積極的に参加しており、近隣の幼稚園、中学校、高校とも交流を図っている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は家庭的な雰囲気大切にしており、ゆったりとした生活の流れの中で入居者一人ひとりの能力に応じた対応を行い、毎日を楽しく過ごしてもらうよう支援している。医療や介護、生活面についても各機関との連携が図られているので入居者、家族の安心につながっている。また、近隣の幼稚園や中学校、高校の行事への参加や、中学生の職場体験、高校生のボランティア講座などを行い地域との交流を図りつつ生活できる環境を整備している。職員は、法人内・外の研修へ積極的に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・基本理念は、事務所や共用ホールに掲示している。 ・新規の採用職員には、採用時の研修で、理念の意味を伝え、全員で共有出来るようにしている。	法人理念のもと、事業所独自の理念を開設当時に職員と作り上げ、職員間で認識し共有し合い、日々のケアの実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に加入している。 ・地域の行事に参加し、近隣の幼稚園、保育園、中学校、高校、地域住民との交流を図っている。	職員は町内の草刈りやゴミゼロ運動などに参加したり、入居者と公民館のお祭りや近隣の学校行事に参加している。また、近隣の中学生の職場体験や、高校生のボランティア学習を受け入れており、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の高校生のボランティア講座や地域の中学生の職場体験活動の受け入れを行っている。 ・認知症の理解や支援方法を知って頂き、実際に触れ合う機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に1回、町内会役員や市職員、ご家族様等に参加していただき運営推進会議を開催している。 ・利用状況、活動状況の報告のほか、運営や取り組み等についての意見を伺い、運営や処遇の向上につなげている。	会議は2ヶ月に1回定期的に開催し、町内会役員や市役所職員、家族等、多数参加している。事業所の活動状況や日々のケア、外部評価結果等の報告をして話し合いを行い、アドバイスや意見を頂いてサービスの質の向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・必要時において、介護保険課や高齢福祉課、地域包括センター、高齢者支援センター等との連絡調整を行っている。	運営推進会議以外でも必要時には高齢福祉課等の市役所職員の方に相談やアドバイスを得たりして協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・事業所内での年間研修計画に盛り込み、身体拘束についての勉強会を行っている。 ・「身体拘束適正化に関する指針」に沿って取り組みを行い、毎月検討会議を行っている。 ・外出希望のある入居者には、時間を決め、職員付き添いの下、散歩やドライブ等で気分転換を図っている。	年2回研修を行っており、会議では職員同士が意見を出し合い、身体拘束をしないケアを実践している。スピーチロック、ドラックロック、フィジカルロックについての研修もされており、入居者の行動や態度を観察しながらさりげなく声をかけて見守りや一緒について行くなど、安全面を配慮し、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・事業所内での年間研修計画に盛り込み、虐待防止についての勉強会を行っている。 ・職員のサポート体制を整え、ストレスマネジメントを行う事で虐待発生防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・事業所内での年間研修計画に盛り込み、権利擁護に関する制度についての勉強会を行っている。 ・管理者が地域における成年後見制度の現状や制度理解についての研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時は、入居者や家族等に重要事項について説明し、十分に納得した上で入居していただいている。 ・契約改定時や退去時にも入居者や家族に十分説明し、納得が得られるように、配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・管理者が苦情、要望の対応窓口になっている。 ・面会簿にご意見記入欄を設けている。 ・第三者委員を設置し、潜在化している意見や相談を吸い上げる目的として行っている。	入居者からは、日々のケアの中から意向を把握し対応している。家族からは運営推進会議や面会時等で気軽に話しやすい雰囲気作りに努め、意見の吸い上げを行っている。また、第三者委員の方が月に1回来所し、話を聞く体制が整っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・事業所の会議の場で、意見や提案を聞く機会を設けている。 ・受け入れ時は、入居判定会議を設けて、全職員の意見が聞けるように行っている。	毎月の会議の場で管理者は職員の意見や提案を聞くように努めており、常に職員と何でも話し合える関係が構築されている。出された事項は職員と話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・労働基準法に沿った就業規則があり、労働条件を整えている。 ・ノー残業デーの設定、年次有給休暇の計画的付与、育児休暇100%等を目指して実施している。 ・働きやすい職場として、職員のやる気に繋がり、介護サービスにも反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新規の採用後3ヵ月程度は、新人の研修期間として、OJT研修を行っている。 ・1ヵ月に1回は勉強会を開催している。 ・必要に応じて外部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・県のグループホーム協会や市のグループホーム協議会に加盟している。 ・協会や協議会で開催している研修や、親睦会等には、管理者を中心としながら、他職員も含め、積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居に至るまでの情報や本人、家族の要望については、面談、相談により出来る限りの把握に努めている。 ・処遇の向上に向けた会議を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・初期面談を通し、要望、ニーズの把握により不安の解消に努めている。 ・定期的(3か月に1度)、または必要時に随時モニタリング、介護計画を見直し、面談により説明と同意を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人、家族の意向や状況の把握は、担当の介護支援専門員と連携しながら検討し、適切なサービスであるかを判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は、日常業務の中で、入居者と関わる時間を多く持つ事に努めている。 ・調理や裁縫、家庭菜園等を教えていただきながら一緒に行っていたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人と家族がどのような関係であるかを把握し、それに合わせた支援を行っている。 ・お誕生会や忘年会等の行事は、家族等にお知らせし、本人、家族、職員とお祝いして、共有の時間を持つ事が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの人や場については、家族や親戚に協力頂いて支援出来る人もいるが、殆どの方について支援が難しい。 ・馴染みの方やご兄弟が併設事業所を利用されており、交流が出来るように努めている。	併設事業所を馴染みの方や兄弟が利用されており、行き来して交流を支援し、関係が途切れることのないように取り組んでいる。家族や知人の訪問時にはゆっくり話し合える場を提供して穏やかに過ごせるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士の人間関係は、職員間で把握している。 ・関係性の良くない方やトラブルの可能性のある場合は、さりげない配慮を行っている。 ・孤立するような状況の時は、職員が間に入る等の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・長期の入院でやむを得ず退居になった場合、医療機関との連携を図っている。 ・新たにサービスを利用する場合、円滑に利用に繋げられるように、情報提供や相談等、出来る限りのフォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・過去の生活状況や会話、普段の暮らしの中から、個別に本人の意向の把握に努めている。 ・本人が何を望んでいるかを、第一に考えている。	事前面接での聞き取りや、日々の関わりの中での言動や表情の真意を推し測り、日々の状況を記録し意向の把握に努めている。毎月カンファレンスを行うことで職員間で情報を共有し合い、生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・家族や友人、以前利用されていたサービス関係者、医療機関等の関係者から情報収集するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の観察の中から、個別に把握している。 ・日々のミーティングや処遇改善会議の場で情報共有に努め、処遇の向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・定期的に入居者個別の処遇検討を行っている。 ・全職員で話し合い、意見を反映させた介護計画を作成している。 ・見直しを行う時は、家族や入居者から意見を頂いている。	本人、家族からの意向が盛り込まれており、日々の生活記録を重視し、評価、介護計画の作成に活かしている。3か月ごとに見直しを行い、状態の変化時に応じて随時計画の見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別のケース記録に日々の状態を記録している。 ・1日2回行われている申し送りの時間で情報の引継ぎを行い、情報の共有化を図っている。 ・実践した内容を処遇検討会議で話し合い、ケアプランの見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、家族に状況に応じて病院受診や入院中の身の回りの援助を行っている。 ・併設の小規模多機能ホームと交流を図る事で、なじみの関係の継続を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・運営推進会議において、地域の町内会役員、老人クラブ会長、近隣幼稚園等、地域を良く知っている方々に出席頂いて、地域の資源について意見を聞いている。 ・地域のボランティアの来訪も継続されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居契約時に病院受診についての意向を確認している。 ・かかりつけ医があり、希望があれば関係を継続していけるよう支援が出来る体制を整えている。 ・受診結果はその都度家族に報告し、意見や要望を伺う等の対応を行っている。	協力病院を設定しているが、家族からの希望があればかかりつけ医を継続できる体制を整えている。受診結果はその都度家族に報告している。必要に応じ家族に病院へ来て頂き、医師から説明を受けて家族同意のもと適切な医療が提供されている。歯科は訪問診療を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・専従の看護師を配置しており、健康管理や医療機関への支援をおこなっている。 ・夜間、日中問わず緊急時の連絡体制は整えている。 ・介護支援専門員や介護職員との情報共有、連携も図れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入居者が入院した時は、医療機関へ必要な情報提供を行っている。 ・状況に応じて職員が入院先を訪問し、状態の把握や今後の治療予定等の情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化対応の方針について入居契約時に確認と同意をいただいている。 ・事業所で出来る事と出来ない事を明確にして、本人・家族に理解、納得していただいている。 ・重篤な疾患が発症した場合は、その都度家族、医療機関との話し合いを行い、意思統一を図っている。	契約時、重度化や終末期について家族へ説明し、話し合いの場を設けて方向性や希望を確認して支援につなげている。状態変化に応じ、繰り返しの話し合いを行い、随時意志の確認をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・定期的に勉強会を行い、全職員で把握し、急変や事故発生時は「緊急マニュアル」に沿って対応できるようにしている。 ・安全管理委員会を設け月1回の会議と、適宜にヒヤリハットの報告と検討を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災や地震、風水害等を想定した防災訓練を定期的に行っている。 ・警備会社との契約や地域の消防団との連携、法人全体での非常連絡網の整備もできている。	事業所で毎月訓練を行っており、年2回昼夜間想定総合訓練を消防署の指導のもと実施している。防災マニュアルもあり災害時に備えた食料や水は準備されている。火災だけではなく、地震、水害等のマニュアルも整備され、職員は避難場所までの道のりを歩いて確認し、職員全体が緊急時に備えた避難方法を身につけるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に声掛けや対応については工夫している。</li> <li>・個人情報の取扱については、入居契約時に説明し、同意を得ている。</li> <li>・職員については、個人情報保護についての説明と契約書に記入してもらい、定期的に更新する事で意識の低下を防止している。</li> </ul>	<p>研修を行い、声掛けや対応について勉強している。羞恥心やプライバシーに配慮した支援が行われており、日々の関りの中で会話の内容や表情から気持ちや思いの把握に努め、職員間で情報を共有している。職員に対して個人情報保護について説明と契約書を定期的に更新していることで意識の向上を図っている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で決定したり、希望を表したり出来る場面を、日々の生活の中で意識的に引き出していけるようにしている。</li> <li>・食事のメニューや余暇活動の内容、外出先や買い物について等の希望を取り入れている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者個々の生活ペースを尊重して支援する事の必要性は、全職員が共有して理解できている。</li> <li>・可能な限り入居者のペースを大切にしている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣類等は、自分で好きな物を選んで着て頂いている。</li> <li>・化粧品も好みに応じて行って頂き、理・美容は希望に沿って支援する体制は出来ている。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼食は管理栄養士の作成した献立の下、調理師が作成している。</li> <li>・朝、夕については、食べたい物のリクエストを伺いながら献立を立てている。</li> <li>・調理は個々の能力を把握し、米とぎや皮むき、盛り付け、後片付けを一緒に行っている。</li> </ul>	<p>食事の準備や片付けは、本人の能力に合わせて職員と一緒にしている。献立は入居者の希望を取り入れ、個々に合わせた形態で栄養バランスのとれた食事を提供している。月1回バイキングを行っており、外で魚を炭で焼いたりし、季節に合わせたものを提供している。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事摂取量や水分量について必要量の確保に努め、体重の変化を観察している。</li> <li>・塩分や栄養量の制限がある方については医師の指示に従って支援している。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に合わせ毎食後の歯磨き、義歯洗浄等の口腔ケアを声掛けや介助で行っている。</li> <li>・必要に応じて週1回、義歯洗浄剤による洗浄を支援している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して、利用者に合わせて個別の対応で支援している。 ・おむつは出来る限り使用せず、トイレで排泄出来るよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し、排泄用品の使用を最小限にするように努めている。表情や行動の変化を見逃さずに対応することで、トイレでの排泄につなげている。また、介助時は羞恥心やプライバシーに配慮した声掛けを行い、さりげない支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日、牛乳、ヨーグルトを献立に取り入れ、便秘の予防に努めている。 ・頑固な便秘の方は、医師に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	・曜日や時間帯は、ある程度決まっているが、入浴する時は一人ひとり時間制限せず、ゆっくりくつろいで入浴出来る様に努めている。 ・入浴剤を使う等の工夫をしている。	週2回の入浴を行っており、季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯、その他は入浴剤などを入れたり個々の好む温度を確認して、くつろいで入浴して頂けるような工夫がなされている。また、入浴日以外は足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日々の生活パターンや夜勤帯の観察から、個々の睡眠の状態を把握している。 ・希望者には、ラジオを掛けたり、蜂蜜湯等で気分が落ち着くように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬については、受診の都度申し送りや会議等で報告し、全職員で情報の共有が出来ている。 ・薬の管理についても、複数の職員で確認できる体制になっており、誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・掃除、食事の準備や後片付け、裁縫等入居者が意欲を持っているものについては、個別に能力を考慮し役割として行っていたいっている。 ・楽しく安全に行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・個々の希望に沿い、散歩や買い物等、付添で行っている。 ・季節の外出行事を入居者の希望を踏まえて、春から秋にかけて毎月1回程度行っている。	日常的に散歩や買い物などを行っている。春から秋にかけて季節を感じられるよう、毎月1回花見や水族館、外食ドライブなど計画を立てて行っている。家族も参加されることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・利用者個々の金銭管理能力を把握して、ある程度の金銭は本人が管理している。 ・外出時等、自分で支払いしていただく事で金銭管理能力の維持、向上に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙や電話は、ご希望に応じて対応している。 ・手紙の自筆が難しい場合は、家族または職員が代筆する等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用ホールには台所があり、調理の時には適度な音や匂いで家庭的な生活感が感じられるように努めている。 ・食材は、季節の物を取り入れたり、職員が制作した季節に沿った飾り物を飾っている。	共有空間は、換気や採光、音に配慮されている。周囲の壁には行事毎の写真を掲示し、季節を感じる飾り付けがされている。常時、心地よく、一人ひとりが思い思いにテレビを見たり、くつろげる場を設けている。ホールには大きな窓があり明るく、居室とホールの温度差が出ないように温度管理を行い、快適な室温・湿度を保つ努力がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有ホールにはソファやダイニングテーブルがあり、利用者1人ひとりが好きな所に座って会話を楽しんだり、自由にくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人や家族と相談しながら馴染みの家具等が好まれる場合は、お部屋に収まる範囲で持って来て設置している。 ・家具等は、居心地よく過ごす事ができるように個々に自由に配置している。	家族に協力してもらい、使い慣れたものを持ってきて頂いている。本人が好むものを装飾し配置することで安心して居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリー設計で浴室、廊下、各部屋のトイレには手すりが設置されており、安全に出来るだけ自立した生活が送れるように配慮している。 ・浴室では滑り止めマットを使用している。		